

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人マナ 辻なかよし食堂
代表者・役職名 氏名 代表理事 天野 洋行

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

こども食堂支援助成

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

私たち「なかよし食堂」は「いっしょに食べるっていいね」をキャッチフレーズに地域で孤食になりがちなこども達、孤立しがちな高齢者に対して地域交流の場を提供し食事、学習指導、居場所の提供を通して人々が安心していきいきと暮らせる地域社会づくりに貢献することを目的に毎月第2、第4火曜日、年間24回の計画で2019年3月より活動を開始しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2020年7月からは集まって一緒に食事をするスタイルからその場で調理した温かい手作り弁当の配付に活動内容を切り替えて現在に至っています。2022年度につきましては感染防止対策を徹底したことによりコロナ禍であっても計画通りに年24回開催することができました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

地域の中で年々ボランティアとして協力して下さる方や食材を提供して下さる企業様や今後活動を始めるにあたり見学を希望される方が増え、地域の中で社会的課題解決策のひとつとして「なかよし食堂」の活動が広く認められるようになりそれに伴い地域の連帯感が増し一体となった取り組みが広がりつつあるように感じます。
これにより諸物価が値上がりする状況下で経済的にも安定して運営することができました。
結果として2022年4月12日～2023年3月28日の期間中に開催した24回の食堂の利用者数は昨年度が大人2,080名、小人810名 計2,890名に対して2022年度は大人2,234名、小人844名 計3,078名と大人、小人ともに増え合計では前年比106.5%と多くの方々にご利用していただくことができました。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

今後はコロナ感染の状況を見極めながら、また利用者の方々の意向も踏まえて弁当配付と並行して一緒に集まって食べる従来のスタイルも徐々に復活していきたいと考えています。
課題としては①人材の確保 ②活動資金の確保 ③活動拠点の確保の3点が挙げられます。
具体的に人材の確保につきましては、日によって活動できるボランティアの人数にバラつきがあるため、このバラつきをなくすこと、②につきましては自己資金を増やすこと、③につきましては今後弁当配付と並行して集まって一緒に食べる食堂を開催するためにより広い会場を確保することです。
課題解決のため行政や地域の方々のご協力を得ながら解決していきたいと考えています。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

